

特別レポート 学会発起人会幹事会事務局 長・学会理事 川喜多喬氏に聞く 日本キャリア デザイン学会設立大会と学会の今後の活動 について

企業と人材, 編集部 / 川喜多, 喬 / Kawakita, Takashi

(出版者 / Publisher)

産労総合研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

企業と人材 / 企業と人材

(巻 / Volume)

37

(開始ページ / Start Page)

39

(終了ページ / End Page)

41

(発行年 / Year)

2004-11

特別レポート

日本キャリアデザイン学会設立大会と 学会の今後の活動について

— 学会発起人会幹事会事務局長・学会理事 川喜多 喬氏（法政大学キャリアデザイン学部教授）に聞く

今年9月末、東京・市ヶ谷の法政大学において、日本キャリアデザイン学会の設立大会が開催された。以下では、設立大会の様相を報告するとともに、学会の今後の活動等についての、学会発起人会幹事会事務局長・学会理事の川喜多喬氏へのインタビューを紹介したい。

「普通の人キャリア」の研究を

同学会設立大会は、9月25日午前11時、発起人会会長の清成忠男氏（法政大学総長）のあいさつで始まった。続いて川喜多氏から、これまでの経過報告と趣旨確認があった。

同氏は、200年前の英国で政治家や作家らが「し始めた「キャリア」という言葉が、「恵まれた地位」という意味合いを含んでおり、日本でも（例えば、官庁の「キャリア組」、「ノンキャリア」といった表現に見られるように）、そのようなニュアンスで使われてきたとしたうえで、日本キャリアデザイン学会では「ごく一般的な、普通の人にとってのキャリアの研究を目指したい」と、学会の趣旨を説明した。

そして、人の人生航路を縦方向にとらえるためには、家庭や学校、職業、老後など、各ステージごとの研

究だけでは不十分であり、各分野の研究者・実務家がお互いの情報・ノウハウを交換する場が必要だとした。

大会はその後、規約の承認、役員選出と進み、初代会長には清成忠男氏、副会長には渡辺三枝子氏（筑波大学大学院教授）が選出された。

昼食をはさんで再開された午後の部では、基調講演として、

- 1) 「今、なぜ「キャリアの研究」が必要なのか～カウンセリング心理学の立場から」 渡辺三枝子氏
 - 2) 「ものづくりはひとづくり～現代の若者たちをどのようにとらえるか」 野村東太氏（ものづくり大学学長）
- という2つの講演があった。

午後5時45分からは、アルカディア市ヶ谷に会場を移し、交流パーティーが行われた。こちらも盛況で、あちこちで異分野の人同士の歓談が見られた。

多彩なテーマが並んだ分科会

翌26日は、2つの会場に分かれて、10テーマの実践報告と6テーマの研究報告が行われた。以下にテーマのみ



▲学会設立大会の分科会で講演する菊地達昭氏（NECユニバーシティ取締役）

を列記する。

■実践報告

- ①高校におけるキャリアデザイン教育
- ②児童期から青年期におけるキャリアデザイン
- ③キャリア教育における、連携による「体験の場」の創出
- ④短大におけるキャリア教育の理論と実践
- ⑤NECにおけるキャリア支援
- ⑥労働組合におけるキャリアデザイン支援
- ⑦エコミュージアムと生涯学習まちづくり
- ⑧地域におけるキャリアデザインと生涯学習支援
- ⑨大学におけるキャリア指導の現状と課題：中央大学の取り組み
- ⑩自らのキャリアデザインと資格専

■ 特別レポート

門学校におけるキャリア相談	と課題	キャリア開発の側面
■ 研究報告 ① 学生意識から見た職業観形成に関する大学教育の役割 ② 公共職業能力開発施設におけるキャリア・コンサルティングの現状	③ 「産業福祉」と「キャリアデザイン」研究の可能性 ④ IT技術者のキャリアデザイン ⑤ 看護師のキャリア選択 ⑥ 中高年管理職の転職実態・企業内	これだけを見ても、この学会が持つ多様性を伺い知ることができるだろう。ちなみに、企業内教育に関するセクションの発表者は、実践報告 ⑤が(株)NECユニバーシティ取締役／

キャリアデザインは生涯続く営み

～川喜多 喬氏（学会理事）に「学会の今後の活動」について聞く

「まず、「キャリアデザインって何だろう」というところから、お話を伺いたいのですが。

本学会では、キャリアデザインを「質の高い生き方の自覚的な選択」ととらえています。つまり、単に職業上のキャリアだけにとどまらず、一生涯を通じて継続的に行われる営みだと考えているのです。

行政の経済計画や企業の事業計画でも、大事なものは計画書そのものではなく、「計画する」という意思というか、考え方だと思うんですね。計画書のほうは、状況に応じてどんどん見直して、書き直していけばいい。「事業計画書ができた。さあ、そのとおりにやろう」ということではないはずなんだ。けれども、「どうせ見直すんだから」といって、事業計画はいらないのかというと、そんなことはない。やっぱり計画は必要なんです。

一人間の人生もそれと同じだということですね。

そうです。人生に目標を持ち、手段を考え、リソース——自分の時間とエネルギーを割り当てる。そういう物の考え方と能力が重要です。比較的早い段階で計画を立てて、何が何でもそのとおりにやるんだ、ということではない。

比喩として言うと、キャリアデザインはあくまで足場なんです。建物を建てるには足場が必要だけれども、建物が出来上がったときには足場は取り払われる。人生は足場を眺めるためにあるのではなくて、建物を建てるためにあるんだけど、建物を建てるためには足場が必要だということになる。

だから、人生設計をして、設計書ができたなら「バ

ンザイ」ではないんですよね。そこが誤解されやすいところだと思っています。例えば2泊3日のセミナーで、最初に自分を見つめて、世の中をよく調べて、キャリア目標を定めて、そこに至る方法を探しなさい、それでキャリア設計の出来上がりっていうようなことではないと思うんです。そんなに単純じゃない。それらはすべて継続的な作業だし、一度作った目標もまた見直していかなければいけない。

ところで、キャリアデザイン学会は、企業人だけでなく、学校教育や地域社会の人など、実に多様な人材で構成されていますね。

この設立大会中に、ある先生から伺った話ですが、老人ホーム入居者のためのキャリアデザインを考えていると言ってますね。老人ホームに入って終わってことではなくて、そこでどう素晴らしい人生を生きていくか。体は衰えても、第2、第3の生き方を発見していこうという取り組みは、単に人減らしのためのキャリア支援を超えた、重要なヒントを企業人にも与えてくれるでしょう。

そういう実践例を、学者や企業の人材開発担当者や学校教育関係者が共有し、議論していく。学会がそういう場に育っていけばいいと思っています。

学会の今後の活動としては、どんなことを予定していますか。

定例的な勉強会のほか、見学会を開催します。キャリア教育を熱心にやっている団体や組織の現場を見に行こうというもので、例えば、ものづくり大学

同学会事務局長 菊地達昭氏(写真)、同⑥が前電機連合中央執行委員、同学会理事 内田勝久氏、研究報告④が日本アイ・ビー・エム(株)人事・組織・人材企画キャリア開発・プログラム担当 丑田俊二氏。

以上が、日本キャリアデザイン学

会設立大会の概要である。同学会の今後の活動等については、下欄の川喜多氏へのインタビュー記事をご覧ください。

また、学会では投稿を歓迎している。興味のある方は、学会のウェブサイトにある「投稿規定」を参考に

されたい。その他、最新の活動状況なども、同サイトでチェックすることができる。

■日本キャリアデザイン学会HP
<<http://www.cdi-jjp/index.htm>>

や、キャリア教育を熱心にやっている高校を訪問するツアーを考えています。

それからまだ構想段階ですが、キャリアデザインに関する「総合調査」を実施したいと考えています。調査結果をまとめて白書を発行できれば、世の中に貢献できるかと思っています。その他には、『キャリア事典』を作ったらどうかという話も出ています。

本学会は、1人の偉い先生の理論でみんなを啓蒙していくというやり方をしないほうがいいと思っています。そう簡単にまとめない、雑多な意見があってもいいという場にしたい。キャリアはもともと多様なものなのだから、「この生き方がいい」とか、「このキャリアがいい」といったように、簡単に結論を出さないことが大事だと思っています。

—ニュースレター「キャリアデザイン」も発行されていますね。

ニュースレターは3号まで出ています。今後も月に一度は出す予定になっています。

それとは別に、学会広報誌としてメールマガジンも発行します。ニュースレターは学会会員限定ですが、こちらは学会広報誌という位置づけで、どなたでも申し込めるようにします。それから、賛助会員を増やして、キャリアデザイン支援の研修や関連書籍などの会員割引をやっていききたい。キャリアデザインにかかわるサービスの利用促進というか、現実的な利益も必要だと思っています。すでに10以上の団体から賛助をいただいています。

—現在の会員数はどれくらいでしょうか。

設立大会直前の会員数は約200人です。未審査の申し込みが約100人、資料請求や問い合わせが550件ぐらい。ただ、団体だけ大きくて凝集力がない組織にはしたくないと思っています。会員数を増やすことよりも、いかに研究の質を高めるかに注力していくつもりです。多様性は重視しながらも、激論を交わすぐらいでないと。

—これから入会を検討したいという人はどうすればいいでしょう。

入会申込書が学会のホームページにあります。それに必要事項を記入し、学会事務局まで送ってください。書面では、会員2人の推薦が必要となっていますが、まだ設立から間がないこともあり、推薦者なしで申し込んでいただいても、推薦人はこちらで選定できますから大丈夫です。

入会資格に関しても、キャリアデザインに関する研究業績のすでにある人に限っているわけではありません。キャリアデザインということに、仕事上、関連のある人であれば、これから勉強したいという人でもかまいません。企業でキャリア支援部門に所属している人だけでなく、人事労務部門に所属していれば十分資格があります。

さらに言えば、人事や労務の部門にいらなくても、部下の育成、指導に関心があったり、自分自身のキャリアに関心を持つ方にもどんどん参加してほしいと思います。(まとめ 編集部)